

何かと気忙しい年の暮れを迎えて

コロナ禍後 何とか元に戻せた年かなあ

会長 合原一夫

コロナ禍は治まりそうで、また流行ってくる、といった具合で、どうやら第8波が来るのではないかと懸念されています。私も5回目のワクチンを打ってやれやれと思っていますが、会員の皆様、人と接する機会が多いので、出来るだけ早くワクチン接種をお勧めします。

コロナ禍のもとではありましたが、今年は3年ぶりに一泊撮影会を実施しました。皆で同じ場所へ撮影に行き、夜は同好者同志ビールで乾杯なんて3年ぶりの事だったか。やはり、こうした雰囲気がいいのです。映写会もますます良かったと思います。コロナ禍のもと入場制限など、特に大阪市立中央図書館の場合、うるさく言われますが、入場制限があるからと案内状を絞って発送すると、顧客そのものの数が次第に減ってきます。芳名簿の登録人数が随分減ってきています。

さて例会運営ですが、進藤氏が病気で運営から抜けられましたので、残りのメンバーでカバーしていますが、新年度からは新しい人も世話役として入って頂くことにしています。役割分担の変更の事も含めて皆様のご協力をお願い致します。

岡本至弘副会長が和歌山県の映像コンで入賞

このほど行われた第51回和歌山県アマチュア映像コンクールで、岡本さんが、「丹後半島・伊根の印象」で「和歌山県観光連盟会長賞」を受賞されました。おめでとうございます。この作品は令和元年OMC撮影会の作品ですが、NHK和歌山放送局の審査員の講評では、しっかりとした構図で良く出来た作品だと好意的にコメントされています。例会へまた持ってこられて会員の皆さんにもう一度見せてもらいましょう。

12月例会ご案内

- 通常例会；第4土曜日24日、18時より難波市民学習センターにて
- 幹事会；同上の日 13時より 年度賞選考他
- 世話役会；同上の日 15時より 来年の役割分担や会計報告、撮影会など

1 1月通常例会レポート

11月例会は第4土曜日26日18時より、難波市民学習センターで開催、13名の会員と10作品によりほぼ時間一杯の盛会となった。司会は合原会長、書記は本来なら進藤氏だが病欠の為、これも会長が引き受け例会を進行した。

- 運営担当：司会と書記、合原、YouTube関係、江村、映写、上総、メモリー記録 江村、受付照明、宮崎、森下の各氏
- 出席者：岩井、江村、岡本、上総、紙本、合原、高瀬、鉄具、坪井、中川、宮崎、森下、山本の13名、関氏（作品のみ）

上映作品（今月の講評は合原会長）

1, 2020よさこい BD
江村一郎 8分50秒

（作者コメント）

2020年日本でコロナが流行り始め一回目の緊急事態宣言や蔓延防止重点処置となり、あらゆる祭りや行事がストップした。よさこい祭りも当然のように中止となったので開催地が中止でどのようなか見て回っている時、何かやっている様子が見えた。町中よさこいと称して3チームのよさこい踊りが披露されていた。テレビカメラも入っていたので報道関係には通知があったようですが当方は思い掛けず撮影することが出来た。



（会長コメント）

2年前の夏はコロナ禍の流行り始めの頃ですべての行事や祭りが中止に追い込まれていた頃。それでも、“中止のハズのよさこい”は、実際にやっていたグループがあったという事で作品としても充分惹き付けるものがある。題名の付け方にももう少し工夫してほしいし、最後の締めくくりにも、狙いに沿ったカットが欲しかった。構成によって魅力ある作品になる可能性がある。

2, 能のある村 DVD
合原一夫 11分40秒

（作者コメント）

福岡県みやま市、令和の今は市となっているが、私が住んでいた村は隣村の農村である。

ここに、柳川の立花藩から拝領したと伝えられている能面や能衣装と共に能の奉納という祭りごとが毎年行われている。村の若者達が、長老から舞の指導を受けながら村の伝統行事を受け継いでいる。これは40年前の昭和57年に撮影した8ミリフィルム作品である。今は若者が減って能の文化を伝えていくのに苦労しているに違いない。



3, ロケ地を訪ねました BD
鉄具嘉夫 9分51秒

（作者コメント）

ハリウッドが制作した映画「Sound of Music」のロケ地はオース



トリアのザルツカンマーグートでした。しかし何かおかしなところがありました。

(会長コメント)

23年前の海外旅行の記録だそう。映画を観ていない者にとって何か一つ印象が湧かないものがある。

4, カヤの巨木は郷土の宝 BD
紙本 勝 10分00秒

(作者コメント)

兵庫県上郡町松雲寺のカヤは西播磨最大の巨木。篠山市日置のハダカガヤは有名で世界唯一の珍木という。又、養父市能座のヒダリマキガヤは西日本最大、いずれも珍しく貴重な存在で郷土の宝物として守られている。



(会長コメント)

作者の巨木紀行もこれで19作目だというから、紙本さんの健脚ぶりは驚きである。

電車、バスから歩いての巨木撮影に敬意を表したい。何百年もの樹齢の巨木が、各地に残っていることを紹介して頂いた、本シリーズは貴重な記録といえよう。

5, 高原の小さな町 BD
関 剛 6分15秒

(作者コメント)

カナダ旅行の2作目。ケベック州の湖畔にあり、冬はスキー客でにぎわうリゾート地。私たちが訪れた頃はちょうど紅葉の真っ盛りで、カラフルな建物が風景と同化して、まるでおとぎの国に迷い込んだよう。



僅か2時間ほどの滞在だったので町の詳細は撮れず、只きれいなだけで内容的にはいまひとつ。

(会長コメント)

紅葉の季節、カナダの小さい町、日本では見られない異国情緒たっぷりの映像で、さすが、関さんの撮影・編集の技術である

6, 平岡神社・秋郷祭 BD
岡本至弘 7分30秒

(作者コメント)

大阪府と奈良県の県境・生駒山の麓に位置する枚岡神社は、河内國一ノ宮と呼ばれる日本最古の一つとして、地域の厚い信仰を集めてきました。勇壮な太鼓台を始め祭りのクライマックスと言われる中垣の様子などを取材しました。



秋の郷のまつり、昔から、秋の収穫を歡ぶ氏子たちが、枚岡神社のお陰と感謝の心をささげるために行ってきた祭りで秋郷祭(しゅうごうさい)と呼んでいます。

コロナ過で2年間中止されていましたが、3年ぶりに本格的な秋の訪れを告げる「枚岡神社秋郷祭」です。各地から、大中小の23基の太鼓台が地域を巡り順番に宮入し、太鼓、鐘の音を響かせながら、賑々しく執り行われます。10月14日と15日の両日は境内が人々の熱気で溢れその熱気は鳴り響く太鼓の音、担ぎ手の「チョーサ」の掛け声によって枚岡山に座す神々の許へと伝わります。

(会長コメント)

3年ぶりの祭り。盛大な祭りである。解説が無いのでノンナレーションで、場所や言われ、特徴、町内毎に出しているとか、昔は女を入れなかったが今は一緒にやっているとか（本当かどうか分からないが）、3年ぶりの祭りで皆張り切っているとか、資金はこうして集めているとか、何年ぐらいの歴史があるとか、できれば地元の人を声をきくとか、いろいろ話題もあると思う。このままだと、単に「行って撮って来ました」的な作品になってしまう。勿体無い。

7、丹波立杭焼体験の旅 BD

宮崎紀代子 8分50秒

(作者コメント)

町の老人会のバス旅行の一コマ。

今年の旅行は丹波立杭焼きの体験をした記録。

(会長コメント)

上手く描けて居るが、老人会の旅行がメインなのか、立杭焼の体験がメインなのか少しあいまいな点があるのが惜しい。老人会の旅行の記録という事であれば、バスの中や楽し気なメンバーの姿や食事の場面、そして立杭焼体験の様子及び完成品、ラストの締めは自分で作った焼き物でよろこぶメンバーの姿、或いは持ち寄って茶話会の様子でも撮れば Good ではあるが、難しいかも、立杭焼そのものをメインに描くなら、もっと手元や表情のアップも入れ作っている人の声も入れたい。ラストは、焼きあがった自分の焼き物を眺めて、こうも変わるのかという印象をつぶやくとか、要は、作品のねらいをはっきりさせて編集にあたることを心掛けてほしい。



8、紀州街道 BD

山本正夢 11分30秒

(作者コメント)

街道を歩けば今まで知らなかった場所が沢山あり勉強になります。

(会長コメント)

作者の街道紀行もいよいよ最終コーナーに差し掛かったようで、今回は「紀州街道」のうち、大阪の起点、高麗橋か岸和田までの道のり。大阪にもこんなところがあったのか、と改めて認識するところがあちこちにあった。この街道巡りは、ほとんど歩いて撮られているようで、紙本さんと同じくその健脚ぶりには脱帽するほかない。おかげでいろいろ勉強させて頂いた。



9、那智勝浦巡礼（改作） BD

上総秀隆 10分00秒

(会長コメント)

作者コメントが手元に見当たらない（提出されなかったのか、或いは紛失したのか、後者なら申し訳ない）が、先月の例会で、書記コメントで「巡礼とあるのでホテルや道中の観光の処より、もっと寺院に時間を割かれた方がよい」とあったので、改作してきましたとの作者の弁。成程、寺院の処が長くなっている、それはいいのだが、ご朱印状を頂いたところは、この巡礼の一つの目標でもあるので、もっとナレーションで喜びの声を出して感動すべきところではないか。むしろ巡礼の山場でもある筈。山場にすれば、お寺さん場面の最後に持つ



てくるのも一つの手。(実際は順序が違うのかもしれないが)

それと奥さんとのホテルや観光の場面、せっかくご夫婦の巡礼のであるはずなのに奥さんしか出てこない。食卓に二人分の料理があるのに奥さんしか出て来ないのはあまりにも不自然。旅には三脚持参で、夫婦そろって巡礼の旅を楽しんできた、という作品を作りたい。そこに第3者が見ても共感の気持ちが湧いてくる。ホテルでの夕食に、二人がビールで乾杯!とやれば、観る方もつい、つられて乾杯の気持ちが伝わってくるというものである。これからの巡礼の二人旅は決して一人旅の記録であっては作品のレベルがぐっと落ちる、という事を念頭に置いて制作されることを願う。

10. 一休寺の羅漢さん BD

高瀬辰雄 8分30秒

(作者コメント)

京田辺市にある酬恩庵一休寺は、とんち話で知られる一休禅師が再興し、63歳から亡くなる88歳まで過ごした寺です。隠れた紅葉の名所という事ですが、最近は観光バスなどでの見物客も多い。



境内に二十世紀の森があり、70数体の羅漢が置かれています。この羅漢は23年前の1999年に檀家の人たちが彫ったものですが、その中にビデオ仲間の一人も参加しており、羅漢制作の様相を撮影しました。

(会長コメント)

観光客もあまり行かない一休寺の静かな佇まいは、一度は行ってみたい気がしてくる。この一休寺には素人が彫った羅漢さんが79体鎮座している。現在の羅漢さんから、23年まえに彫刻中の場面に転換するが、うまくオーバーラップで転換して、当時(4:3映像)の彫刻中の様子が描かれていて、作品の奥行きを深めている、おなじ羅漢さんでも愛宕山(京都・上嵯峨)の羅漢さんとは、まるで表情が違うのは、指導者の違いであろう。関さんの「第九」の名作を思い出す、一休寺の羅漢さん、どんな物語を語ってくれるのだろうか。本作品を観ながらつい考え込んでしまった。作品としては、こじんまりとよくまとまった作品だ。

第二例会レポート

11月も半ばを過ぎると、さすが朝夕めっきり冷えるような季節になってきた。紅葉もきれいで秋の撮影にはこれからが本番だろう。第二例会は第三木曜日17日午後行われた。主に昼間の例会にしかお見えにならない植村さんや鉄具さんのお顔もあり、13名の会員さんが出席、10本の作品が上映された。終了後は有志により喫茶店で映像談義に花を咲かせた。

- 運営担当：司会 岡本、書記 高瀬、YouTube 関係 江村、映写 中川、メモリー記録 江村、受付・照明 森下、宮崎の各氏
- 出席者：岩井、植村、江村、岡本、上総、紙本、合原、高瀬、鉄具、中川、宮崎、森下、山本の13氏、関氏(作品のみ)

上映作品(今月の書記は高瀬氏)

1. 深日港から淡路伊弉諾神宮へ BD

中川良三 11分20秒

(作者コメント)



深日港から深日フェリーが期間限定で運行すると聞いて、日本最古の神宮「伊弉諾神宮」を訪ねることに。常時運転しているのではないので伊弉諾神宮へのバス連絡が悪く、戸惑ったが、何とかたどり着きました。思っていたより大きな神社で歴史を感じました。

(書記コメント)

深日港から淡路島の洲本港に行く船は途中、海が荒れ、島でのバスの便が悪く、タクシーに乗り継ぐなどで、やっとたどり着いた伊弉諾神宮。苦勞して訪れた神社は荘厳で撮影ポイントも多く、来た甲斐があった感じがうかがえる。ただウェブカメラなのでしょうか、同じワイドサイズの画面ばかりで、アップなど映像的な変化が欲しい。

2. 桔梗と石仏

BD

高瀬辰雄

5分20秒

(作者コメント)

奈良の元興寺の7月の風景です。多数の石仏が並び、その石仏群に手向けられた桔梗が咲いています。ただ7月末に行ったので、桔梗の花の盛りが過ぎていて、少し物足りない感じです。元興寺には日本最古（飛鳥時代？）の瓦が残り、世界遺産、本堂は国宝に指定されているそうです。



(会長コメント)

石仏と桔梗との取り合わせがとても新鮮に感じられました。7月とあって途中、虫の声を入れられたのも効果的でした。小品ながら作品の主旨がはっきりしていてよかったですと思います。唯、題名の付け方にもう少し工夫があってもよいかも。

3. 友井の里

BD

江村一郎

7分40秒

(作者コメント)

タイトルでも判るように今年の課題作品「友」から来ています。実際に提出したのは「友が島」でしたが、撮影会のタイトルと導入部分、ラスト部分を変えただけで今一課題作品に取り組んだ感触がなく、新たな作品を並行して作り、今回発表の機会となる。課題が無ければ作り得なかった作品でもある。



(書記コメント)

昔の良き時代のなごりを残す友井の里を情感豊かに描かれている。春先の映像が主だが、祭りだけは夏。季節の違うシーンの取り扱いは難しいが、最初の神社のシーンには祭りをつながらず、ラスト近くで祭りを入れ、その後に季節は戻り、夕景のシーンで締めくくられ、動から静へのつながりが効いている。トップシーンはインパクトのある元禄15年赤穂浪士討ち入りと出てくるので、何かゆかりのある町かと思って見ていたが、それらしいものはなく、元禄時代すでに「友井」の地名があったということの説明なのでしょう？

4. 奥嵯峨二寺 祇王寺・滝口寺

BD

鉄具嘉夫

7分59秒

(作者コメント)

平家物語ゆかりの寺、祇王寺は平清盛の寵愛を得た祇王と仏御前の悲しい物語。滝口寺は滝口入道と横笛の物語です。



(書記コメント)

嵐山の渡月橋から竹林の小径、そして落柿舎を経て奥嵯峨の祇王寺と滝口寺を訪ねられている。男性と女性のナレーションの掛け合いが平家物語を語る作品にマッチしている。祇王寺は何度か撮影に行っているが、三脚禁止で場所が狭く、なかなか思うように撮れない寺なので、作者も撮影は苦勞されたのではないかと思います。

5. 劇・浦島太郎・次郎物語 BD

宮崎紀代子 21分51秒

(作者コメント)

私の町では毎月1回いきいきサロンとして老人会の集いがあります。年末にはいきいきサロンのスタッフによる演劇が恒例行事となっています。



(書記コメント)

地元老人会のクリスマス会での演劇を記録されている。記録撮影だからなのでしょうか、やや長い感じがするが、演じる人も観る人も高齢者ながら元気で明るい様子が映像からうかがえる。竜宮城などのバックに水族館の魚などの映像を重ねられたアイデアが生きています。

6. ナイアガラ BD

関 剛 7分20秒

(作者コメント)

16年ほど前の18日間のカナダ旅行。まずはレインボーブリッジを渡ってアメリカ側へ。くっきりと見事な虹に迎えられ感動。カナダ側に戻り「霧の乙女号」という名の船で滝の落下点近くまで行って、みごとずぶ濡れになった。しかしカメラは完全ガードしてあったので無事。



(書記コメント)

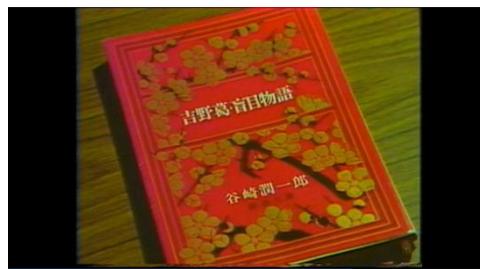
虹が架かるナイアガラの滝。アメリカ側、カナダ側、違った顔を見せる滝を迫力のある映像で見事に描かれている。以前、映写されたのを一部、映像を差し替えられたとか。例会出席と新作作りはままならないようですが、今後作品を毎回、出品されるようで、素晴らしい作品を見られるのは楽しみです。

7. 近江商人のふるさと BD

岡本至弘 15分

(作者コメント)

今から38年前、1984年(昭和59年)に行われたOMC春の撮影会作品です。企画が前田茂夫さん、シナリオは当時の川畑健二会長さんによるものです。まだビデオもない時代、音の入らないサイレントフィルムでの撮影で、カセットテープに音を録音して編集が終わってから合成したものです。私がOMCに入会して間もないころだったと記憶しています。このころは作品作りには、すごい情熱をかけていました。編集が終わったら、もう夜明け、そのまま会社に出勤したものでした。なつかしい思い出のある貴重な作品です。30年、40年前の作品が今でもこうして見られるのはすばらしいことです。



(書記コメント)

フィルムでの撮影(通常1巻で3分20秒撮影・現像代を含め二千数百円と記憶?)はビデオと違って、長時間撮り放題というわけにはいかないので、ワンカット、ワンシーンを慎重に丁寧に撮影してい

たように思います。この作品もワンカット、ワンシーンを構図やアングルを考え、丁寧に撮影され、作者コメントにあるように情熱をかけて作られている様子が作品からうかがえます。

8. あまの街道 秋 BD

山本正夢 10分40秒

(作者コメント)

今年は秋祭りが復活。コロナ流行で3年も休止していたが、久々に再開しました。

(書記コメント)

金剛寺に参詣する人の巡礼道、あまの街道を狭山池からスタートし、金剛寺まで14キロ歩かれたようだ。街道シリーズはいつも史跡や社寺、宿場風景などが主だが、今回は三都神社の祭礼をはじめ紅葉、柿、どんぐり、ススキなど秋の彩りも取り入れ、ボリューム感のある作品に仕上げられている。



9. くじらの町 太地町 BD

上総秀隆 9分53秒

(作者コメント)

和歌山県で一番面積の小さい町。住民の多くはくじら（イルカを含む）で生計を立てている。

(書記コメント)

くじらで生計を立てる町、太地町を訪ね、展示された調査捕鯨船や太地マリナリウムでは捕鯨の歴史や現状などを紹介し、分かりやすくまとめられている。ただクジラとイルカのショーのシーンが合わせて約6分と半分以上あり、見ていて楽しいが、作品的にはアンバランスな感じがします。



10. 建立 (こんりゅう) DVD

合原一夫 17分

(作者コメント)

茨木市にある弁天宗水子供養塔の建設工事の記録である。地盤が悪く、深さ11メートルまで掘り下げて、ようやく堅い地盤までたどりつき、そこに直径12メートルの鉄骨入り鉄筋コンクリートの大きな基礎を造り、地上部分の塔を建てた。塔は鉄骨の骨組の外側にタイル張りのプレキャストコンクリート（工場で作られた鉄筋コンクリートの壁体）が取り付けられている。地下部分にせよ地上部分にしる、曲線や異形の部材が多く、施工には苦勞した覚えがある。着工は昭和54年10月、およそ2年の工事期間だった。塔の高さははっきりとは覚えていないが、75メートル程度だったと思う。私の建設会社勤務中、万博工事に次いで思い出深い工事であった。8ミリフィルム作品。映像作品完成は昭和60年（1985年）。

(書記コメント)

作者コメントにも書かれている通り、難工事であったことが分かる水子供養塔の建設。工事に携わられての撮影で、工事の難しさを克明に描写され、ナレーションで、それらの思いも語られており、見ごたえのある作品といえます。季節の花や祭り、花火など時の変化もさりげなく挿入されている。水子供養といえば、こじんまりとして、密やかな形でお参りされるイメージでしたが、こんなに巨大で立派な供養塔があるのを知り、驚かされました。

